

うぐいす



齋理蔵の講座 はつらつ学園 合同学習会

8月3日に開催した合同学習会には、齋理蔵の講座から31名、はつらつ学園から35名の出席があり、普段とは違う参加者が集まったことで、賑やかさの中にも良い緊張感のある学習会となりました。

当日は東北大学大学院文学研究科の木山幸子准教授を講師に迎え、「コミュニケーションの研究とモノ」というテーマで講話いただきました。世代によって相手との距離感、あるいは距離の縮め方に違いがあり、その違いから敬語の使い方に若干の相違がでてきているそうです。参加者からは質問も出され、みなさんとても興味深げに受講していました。



余談ですが…

「最近の若者は日本語が間違っている」と耳にすることがありますが、言葉はどんどん変化していくもので使われていくうちにそれが正しい言葉となることも多いようです。



9月のこよみ

- 7日(土) 齋理蔵の講座④ (齋理屋敷)
- 8日(日) 丸森町健康まつり(野球・卓球・ゲートボールの部) (丸森町町民体育館ほか)
- 〃 ジュニア・リーダー一定例会 (丸森まちづくりセンター)
- 10日(火) はつらつ学園③ (丸森まちづくりセンター)
- 14日(土) ふるさと歴史講座 (丸森まちづくりセンターほか)
- 15日(日) あぶくま杯招待少年剣道大会 (丸森中学校体育館)
- 21日(土) チャレンジスクール③ (福島県伊達市梁川町)
- 22日(日) ジュニア・リーダー一定例会 (丸森まちづくりセンター)
- 29日(日) 家庭教育セミナー (丸森まちづくりセンター)



「ありがとう」を伝えよう！！



みなさんはお子さんやお孫さんにきちんと「ありがとう」を伝えていますか。「叱るのではなく褒めて伸ばそう」とよく耳にします。褒めることを意識してお子さんに接している方も多いのではないのでしょうか。叱られてばかりいる子どもは「自分はダメな子」だと思ふようになり自信を失い、逆に褒められた子どもは褒められた喜びを感じることでしょう。しかし

「叱る」も「褒める」も保護者の価値観で子どもを評価しているにすぎません。子どもは「叱られたくない」と「褒められたい」という基準で行動するようになり、自主性や自立心を育てることには繋がりません。

「叱る、褒める」と同時に意識してほしいのが「ありがとう」と感謝の気持ちを伝えることです。感謝の気持ちを伝えるということは、子どもと対等な立場で接していることとなります。子どもはより「認められた」と感じるができるでしょう。部屋を片付けた時に「きれいになったね、すごいね」と言えば

喜んで次の日も片付けるかもしれませんが、褒められることが目的になっているので、褒められなくなると片付けをしなくなる恐れがあります。「きれいになって気持ちが良いよ、ありがとう」と伝えることで、「家族が喜んでくれている、家族のためになった」と褒められた時の嬉しさだけではない喜びを感じるはずです。褒められたいという目的ではなく、「誰かのために」「何のために」というように具体的な目的をもって行動することで、徐々に主体性や自立性が養われることが期待できます。

今まで褒めていた部分をこれからは「ありがとう」に変えてみると、お子さんの習慣に変化がみられるかもしれません。



令和元年度 家庭教育セミナー

参加費無料
託児室有り(無料)

子育ての基本から、スマホとの付き合い方など、子育ての「どうしよう?」を解決してくれるヒントがたくさんあるかもしれません。ぜひご来場ください。

家庭教育についてみんなで考えよう!

テーマ 「この時代の家庭と子育てに必要なこと」
講師 HBCラジオ「ファミリートーク」
パーソナリティー 金子 耕弉 氏
日時 令和元年9月29日(日)
13:30~15:00
会場 丸森まちづくりセンター 大集会室
申込み 生涯学習課まで



2男1女の父である金子先生による実体験に基づいた説得力のある講話です。

※当日は託児室がありますので、小さなお子様がいる方やご夫婦での参加も大歓迎です。ご利用希望の方は事前に生涯学習課までお申込みください。